

平成23年7月新潟・福島豪雨から10年 信濃川・魚野川での取組

平成23年7月新潟・福島豪雨の際は、信濃川河川事務所の管理する信濃川中流及び魚野川においても高い水位が発生し、特に、魚野川の堀之内水位観測所で計画高水位を超過し、観測史上最大の水位を観測しました。

この洪水では、魚野川があふれること等による浸水被害が発生したことから、洪水後、堤防整備等の河川整備を進めてきました。

平成23年7月新潟・福島豪雨から10年を迎えることから、信濃川や魚野川において実施したこれまでの取組、成果について、別添のとおりとりまとめましたのでお知らせいたします。

【ポイント】

- 平成23年7月新潟・福島豪雨において浸水被害があった箇所において、堤防整備等を実施したことにより、同洪水時に信濃川や魚野川から洪水があふれること等による家屋部の浸水被害の発生を防止。
- 大河津分水路の可動堰の改築完了と令和の大改修の推進
- 三国川ダムの操作規則変更による洪水調節効果向上
- 排水ポンプ車等の災害対策車両の増強と河川防災ステーションの整備
- 洪水の危険性を情報提供するための水位計や河川監視カメラの増設

今後、令和元年東日本台風洪水を受けてとりまとめた信濃川水系緊急治水対策プロジェクトを着実に遂行するとともに、関係機関と連携し、信濃川中流域の流域治水を推進してまいります。

【参考】

平成23年7月新潟・福島豪雨の降雨や被害の状況は下記のURLでとりまとめています。

<https://www.hrr.mlit.go.jp/shinano/ohkouzu/bousaic/H2307niigatagou.pdf>

配付記者クラブ

新潟県政記者クラブ、新潟県政記者クラブ
長岡市記者会、長岡地域記者会
三条市記者室、十日町記者クラブ
小出郷新聞、小千谷新聞
越南タイムス、FMゆきぐに
エフエム魚沼、建設業界向け専門紙

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 信濃川河川事務所
広報担当 専門職 平塚 洋一郎
(ひらつかよういちろう)

電話：0258-32-3243（内線354）

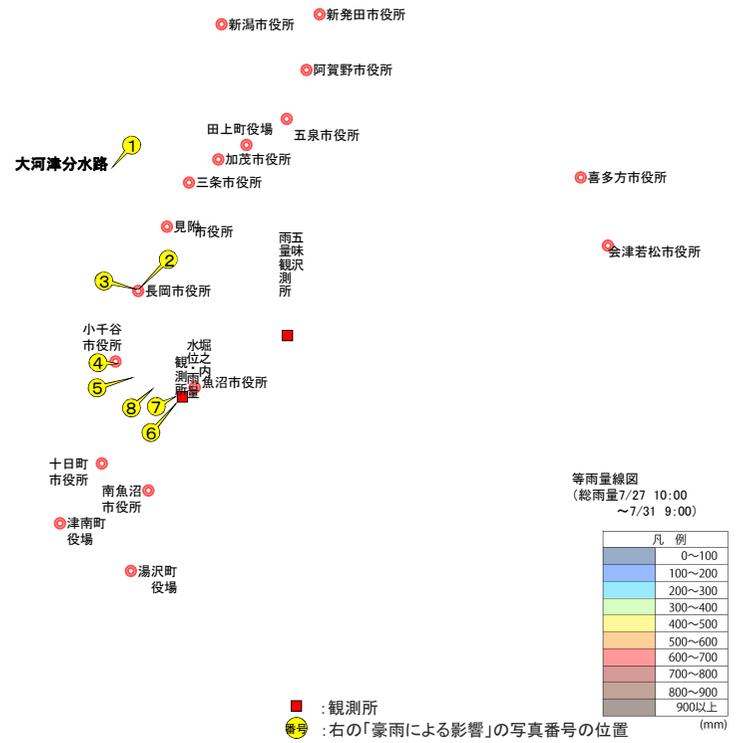
平成23年7月新潟・福島豪雨の特徴

※当時の状況(H24.3.31での記録)であるため、現在の設定、記録と異なる箇所があります。

平成23年7月新潟・福島豪雨

平成23年7月28日から30日にかけて、前線が日本海から新潟県付近に停滞したことにより、猛烈な雨が降る状況が数日にわたって続きました。

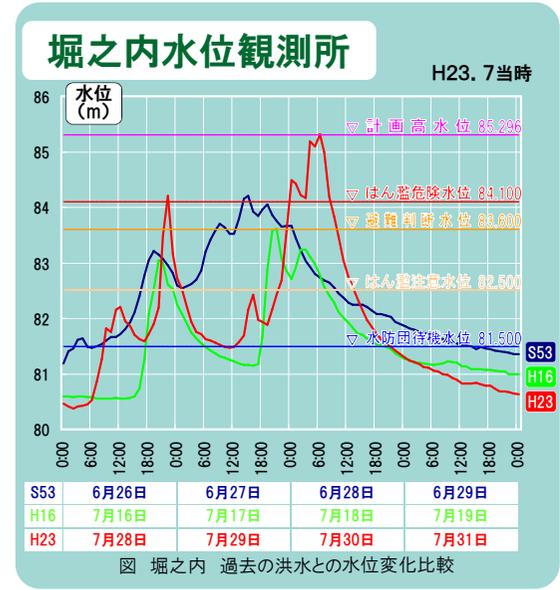
信濃川河川事務所管内での降雨の特徴として、魚沼川に合流する三国川沿いの南魚沼市清水瀬地先において、同じ時間帯の4日間で642mmもの雨を降らせました。これは、4日間で1年間に降る雨の約3割が降ったこととなります。



水位の状況

豪雨による水位上昇で観測史上1位を記録した魚沼市堀之内をはじめ、各地で記録的な水位を観測しました。平成16年7月新潟・福島豪雨と同様に水位上昇の山が2つある水位変化の傾向でした。

※現在の堀之内水位観測所のはん濫危険水位は83.7m、避難判断水位は83.7mです。



豪雨の影響

豪雨による水位上昇に伴い、信濃川及び魚野川があふれることによる床下・床上浸水や道路の浸水等、内水(河川に排水できずにはん濫した水)被害が生じました。



